

迫真性の違いについて

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
長野 晃一

本研究では、自己エスノグラフィーの一種であるエスノグラフィックな回想録と、ナラティブ・エスノグラフィーについて、それらにおける迫真性の描き方の違いを明らかにすることを研究目的とし、それらについて検証した。

分析方法としては、鯨岡の提唱したエピソード記述を用いた。また本研究の参加者は、エスノグラフィックな回想録では筆者、ナラティブ・エスノグラフィーでは、筆者と研究協力者である。

エスノグラフィックな回想録と、ナラティブ・エスノグラフィーについて、これらの迫真性の描き方の違いについて考察を行った結果、ナラティブ・エスノグラフィーについては、多声的な言葉に恵まれる可能性が高いので、迫真性をもった自己内対話が表出される可能性が高いことが示された。その一方で、エスノグラフィックな回想録については、多声的な言葉に恵まれない可能性があるため、回答に記されるのはライフストーリーの出来事の羅列に終始し、迫真性をもった自己内対話を表出することが不可能であった可能性が高いという結果が示された。

本研究では、エスノグラフィックな回想録とナラティブ・エスノグラフィーにおける迫真性の描き方の違いについて、以上の通り結論づけた。